

第2回豊明市高齢者福祉計画策定・推進委員会議事要旨

1 日 時 令和5年3月15日（水）午後2時から午後3時10分まで

2 場 所 豊明市文化会館ギャラリー1、2

3 あいさつ（委員長）

4 議題及び議事概要

（1）第8期高齢者福祉計画・介護保険事業計画の進捗状況について

（2）第9期高齢者福祉計画・介護保険事業計画の策定スケジュールについて
上記議題について資料を基に説明した。

【質疑応答】

委員

基本目標について、モニタリング指標を基に事業の見直しをしているということだが、具体的にどのように見直しているか。また、令和4年度については今示されているのは1月末の現状値であるが、年度末でどれぐらいの数字が出ると見込んでいるか。C型サービスの利用率、多職種合同ケアカンファレンスの参加者数、おたがいさまセンターちゃっとの参加者数等わかれば教えてほしい。

事務局

基本目標1のKPI②について、C型サービスの通所型である元気アップリハビリの利用が減少していることに今年度ははじめごろ把握したため、各包括支援センターから要支援の人のケアプランを検証しどのようなサービスを使っているのか調べた。通所の割合は変わっていないが、元気アップリハビリの選択率が下がっていた。要支援の人の平均年齢が上昇していることもあり、従来のプログラムでは難しいことも分かったため、豊明市リハビリテーション連絡協議会と一緒にプログラムの見直しを現在実施中である。KPI②の数字としてはわからないが、元気アップリハビリの利用者数は年度末に向けて増えており、各事業所で定員が埋まっているところもある。基本目標3のKPI①～③については、令和4年度は令和3年度より若干の減少はあるかもしれないが、概ね同程度になる予想。

委員

豊明市はふつうに暮らせるしあわせを目標に掲げているが、ふつうの定義とは何か。施設サービスを利用している高齢者にとってはこの3年でコロナの影響もあり、ふつうであったことがふつうではなくなっている。面会できない、外出できない、アクリル板を通しての面会になっていて、それをふつうとしなければいけない。この数年でふつうの基準がかわっている。この計画でいうふつうの暮らしとは何か教えてほしい。

事務局

計画で掲げているふつうに暮らすとは一時的な心身機能の低下や入院する前のもとの暮らしに戻る、近づけることを想定している。重度の要介護者については難しい部分もあるが、本人の希望する環境でケアを受けることができるなどがふつうに暮らせることだと考えている。あくまでもコロナによって変わってしまったふつうは客観的なものであり、本計画でのふつうは主観的に自分の中でこういう風に暮らしていきたいということだと考えていただきたい。

委員

ふつうとは自分が幸せと思える暮らしという言い方でよいのか。

事務局

自分がこうありたい、こう生きたいというのを手助けしていきたい。

委員長

第8期計画の策定時にコロナはなかったため、予測不可能なものである。今後コロナも5類になり変化していくのではないか。

委員

来年度地域包括支援センター運営部会と地域密着型サービス運営部会がそれぞれ1回ずつ開催される予定だが、策定の中の部会の役割を教えてほしい。

また、各種調査において豊明市の独自項目があるとのことであったが、具体的にどれが市の独自項目なのか教えてほしい。

事務局

地域包括支援センター運営部会は、包括支援センターの設置や運営、評価や職員の確保に関する事、また地域包括ケアの推進に関する事が担当事務であり、それについて意見交換を行う場として設けている。

地域密着型サービス運営部会は、地域密着型サービスの指定や適正な運営等に関する事が担当事務である。地域密着型サービスに対しては運営指導を行っているため、その予定や実績、指摘事項等を報告している。

調査の独自項目について、9割は国が設けている設問である。例えばお元気チェックの6-10、65歳を超えてから、現在までに何回骨折していますかという質問が市独自の項目である。

5 出席委員 12名

6 傍聴者 0名